

**令和 8 年度（2026 年度）長野県立大学 大学院 健康栄養科学研究科 修士課程
選抜試験（冬季）【⑥公衆衛生学、社会疫学、地域保健、実装科学領域】**

問 問 1 および問 2 に答えなさい。なお字数制限はない。

問 1 PDCA サイクルについて説明しなさい。そのうえで、食環境整備に関する事業の例を 1 つ取り上げ、PDCA サイクルに沿って実施する場合の手順を具体的に説明しなさい。

【解答例】

PDCA サイクルは、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の頭文字を取ったものである。エドワーズ・デミングが、仮説検証の循環により品質改善を図るフレームワークとして提唱し、公衆衛生分野においても事業の推進において広く用いられている。それぞれの段階について、食環境整備に関する取り組みのうち、企業の社員食堂における減塩メニューの提供を具体例として述べる。まず Plan は、目標を設定して事業を計画・立案することであり、社員食堂において減塩メニュー提供の企画を立てる（いつ、どの価格で、何食、時期・時間、工夫等）。次に Do は、計画した内容に基づき実行することであり、企画に沿って減塩メニューを提供する。Check は実行した内容を評価し振り返ることであり、減塩メニュー喫食者へのアンケートを実施する（メニューの美味しさ、価格、健康意識の変化、改善希望など）。Action は Check の結果などを基に改善策を検討して実行に移すことであり、実施したアンケート結果に基づき、企画内容の改善を検討する（味や価格、提供方法など）。

【出題意図】

公衆衛生において事業推進のモデルとして用いられる PDCA サイクルについて、それぞれの要素を、具体的な事例を通して説明できるか、理解を問う問題である。

問 2 「健康日本 21（第三次）」では、「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」のビジョン達成に向けて、①誰一人取り残さない健康づくりを展開する（Inclusion）、②より実効性をもつ取組を推進する（Implementation）、の 2 点が掲げられている。この 2 点について、具体的に説明しなさい。

【①解答例】

「①誰一人取り残さない健康づくりを展開する（Inclusion）」は、各ライフステージ（乳幼児期、青壮年期、高齢期等）に特有の健康づくりの取組みとともに、健康な食環境や身体活動・運動を促す環境をはじめとする自然に健康になれる環境づくりの取組みを実施し、健康に関心の薄い者を含む幅広い対象に向けた健康づくりを推進する。またその際、地域の関係者や民間部門の協力とともに、様々な行政分野と連携する。

「②より実効性をもつ取組を推進する（Implementation）」は、都道府県健康増進計画及び市町村健康増進計画の策定に当たり、人口動態、医療・介護をはじめとする各分野の統計や

データベース等の地域住民に関する各種指標を活用しつつ、地域の社会資源等の実情を踏まえ、独自に必要な課題を選択し、その到達すべき目標を設定し、定期的に分析・評価を行った上で、改定を実施する。また、国が提示する具体的な方策(アクションプラン)等を参考としする、デジタル技術を積極的に活用するなど、より効果的・効率的に健康増進の取組みを進める。

※「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」(厚生労働省)より。

【出題意図】

「健康日本 21 (第三次)」で明記された Inclusion と Implementation について、それぞれの概念や計画における位置づけを、具体的な事例を通して説明できるか、理解を問う問題である。

以上。